

環境・交流

●環境

1. 環境の整備及び保全に向けた基本方針等

近年、温室効果ガス削減を始めとした環境負荷の軽減、生物多様性に配慮した自然環境の積極的な保全とともに、人々が水辺で親むことができる親水空間の拡充が求められています。

名古屋港が将来にわたって社会の多様な要請に応え、港湾機能と環境との共生を実現し、持続可能な発展をしていくため、良好な港湾環境の形成に向けて、以下の基本方針に基づき、環境施策に取り組んでいきます。

(1) 基本方針

ア 港湾環境の維持・回復・創造	周辺地域や海域への環境にも配慮し、身近で親まれる港湾環境の創出とともに、貴重な自然環境の保全、生物多様性への配慮、水環境の改善により「港湾環境の維持・回復・創造」を図っていく。
イ 港湾における環境負荷の軽減	大気環境対策や地球温暖化対策を推進するほか、資源循環に取り組み「港湾における環境負荷の軽減」を図っていく。

(2) 主な施策展開

ア 大気環境、地球温暖化	臨港道路の整備や効率的な物流体系の構築、環境配慮型施設の導入 ・再生可能エネルギー導入の促進
イ 水環境	・海浜の整備や環境配慮型護岸の導入、閉鎖的水域における水質の改善
ウ 自然環境	・現存する干潟等の保全、緑のネットワークの形成
エ 親まれる港づくり	・港湾緑地の拡充
オ 廃棄物・資源循環	・持続可能なしゅんせつ土砂の利用方法の検討、リサイクル資材の活用

2. 名古屋港景観基本計画

名古屋港の個性を活かした魅力ある港湾景観の形成を総合的かつ計画的に推進するため、2008年度(平成20年度)3月に第2版を策定しました。

(1) 計画の概要

ア 基本理念	「ロマンと活気」
イ 基本目標	<ul style="list-style-type: none"> ・産業や生活を支える、活力あふれるみなど ・楽しさ、賑わいのあるみなど ・世界への夢が広がるみなど ・水・緑・生物とふれあい、安らぎを感じるみなど ・歴史の奥行きを感じるみなど

(2) 主な取組

ア カラー計画	「名古屋港カラー計画マニュアル」に基づき、地区の個性を表現した魅力ある港の景観づくりを進めている。
イ 景観アドバイザー制度	建築物・工作物等のデザイン・色彩計画に対し、専門家による助言・指導を行っている。
ウ 景観資源	1998年度(平成10年度)に名古屋港跳上橋が「登録有形文化財」に登録された。2011年度(平成23年度)に旧食糧庁サイロ、10号地灯台、築地灯台、船見開門の4件が、名古屋市の「認定地域建造物資産」に登録された。

3. 名古屋港管理組合地球温暖化対策実行計画

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、本組合が所有する施設、設備における事務・事業から排出される温室効果ガス削減のため、2017年度(平成29年度)に目標や取組などを定めた「第4次名古屋港管理組合地球温暖化対策実行計画」を策定し、地球温暖化対策に取り組んでいます。

(1) 計画期間…2017年度(平成29年度)から2021年度(令和3年度)までの5年間

(2) 目標…2021年度(令和3年度)において、温室効果ガス総排出量を基準年度2013年度(平成25年度)比で14%削減する。また、長期目標として2030年度(令和12年度)において基準年度比で26%削減を目指す。

●交流

・名古屋港のふれあい空間

ガーデンふ頭は、名古屋港が推進する「親まれる港づくり」拠点のひとつです。

名古屋港水族館、名古屋海洋博物館などが入る名古屋港ポートビル、南極観測船ふじなどの施設があり、今では名古屋圏の一大アミューズメントゾーンに成長しています。また、旅客船パースも備え、内外のクルーズ船や帆船も接岸。一年中多くの来港者でにぎわっています。

2017年(平成29年)には、更なるにぎわいや新たな魅力の創出に向け、「ガーデンふ頭再開発基本計画」を策定しました。

金城ふ頭は、名古屋市において「モノづくり文化交流拠点構想」に基づく交流拠点開発が進められ、2011年(平成23年)に「リニア・鉄道館」が開館、2017年(平成29年)には「レゴランド®・ジャパン」(テーマパーク)や「メイカーズピア」(商業施設)がオープンしました。

さらに、国際展示場新第1展示館やコンベンション施設の整備が、2022年(令和4年)10月の供用開始に向けて進められています。

中川運河では、水運による物流の軸としての歴史を尊重しつつ、新たに求められる価値や果たすべき役割を見据えた「中川運河再生計画」を2012年(平成24年)に名古屋市と本組合共同で策定し、沿岸用地では2015年度(平成27年度)からにぎわい施設(商業施設)の誘導を行っています。

水上交通は、名古屋市が運航委託を行っており、本組合は、金城ふ頭の小型栈橋の改修に着手するなどの必要な取組を進めています。



ガーデンふ頭



金城ふ頭

・国際交流

1959年(昭和34年)、名古屋市とロサンゼルス市の姉妹都市提携を契機に、名古屋港もロサンゼルス港(アメリカ)と姉妹港提携を行いました。以後、1983年(昭和58年)フリマントル港(オーストラリア)、1985年(昭和60年)ボルチモア港(アメリカ)、1988年(昭和63年)アントワープ港(ベルギー)、2010年(平成22年)シドニー港(オーストラリア)と、現在、合わせて5つの港と姉妹港提携がなされ、国際理解の一役を担っています。

さらに港湾ビジネスの拡大と実務レベルでの迅速な対応を図ることを目的とした「パートナーシップ港提携」を創設し、現在、2011年(平成23年)提携上海国際港務(集団)股份有限公司(中国)、2012年(平成24年)提携タイ港湾公社(タイ)、2013年(平成25年)提携ゼーブルー・ジユ港湾公社(ベルギー)、2018年(平成30年)提携HAROPA-ルアーヴル港(フランス)と、合わせて4つの港湾団体と提携し、積極的な情報交換を行っています。

そのほか中国との友好交流との貿易の促進を図るため、名古屋港管理組合と中国交通運輸部との間で協議書が交わされ、1985年(昭和60年)より中国各港湾から毎年研修生を受け入れてきましたが、2019年(令和元年)、これを中国港湾協会との協議書に改め、引き続き研修事業を行っています。また、名古屋港利用促進協議会と上海港湾協会との間で友好交流提携が行われています。